



東京市の市会議員、議長、衆議院議員などを勤めた仁杉英氏は、自身も漢籍を坪井秀藏、海保辯之助等の門に学び、後に「壺中無一」の号で俳諧をたしなんでいた関係で、著名な書家、画家との交友があったようだ。

今も一冊の書画帳が残っており、これには氏と交友関係にあったと考えられる書家や画家が揮毫した書や画が全部で38点ある。

この中には下に掲げるように、動物画で名高い望月金鳳の鼠の絵、野口小慧、小蘋母娘の花の絵、村瀬玉田の「石榴」などがあり、書では幕末の儒学者南摩羽峰、股野藍田、観世流家元観世元滋、親交の深かった伯爵土方伯爵などが含まれている。

主な書画



望月金鳳  
(弘化3年—大正4年)



村瀬玉田  
(嘉永5年—大正6年)



野口小慧  
 (明治 11 年  
 -昭和 19 年)



野口小蘋  
 (弘化 4 年 - 大正 6 年)

陶明道愛菊  
 如夢想清標  
 丘被黃甚矣  
 白頭尚打雪  
 七十三丈  
 羽峯

南摩羽峰 (文政 6 年 - 明  
 治 4 2 年)

 <p>友 光 能 壽 是</p> <p>元滋 氏</p>	<p>観世元滋 (観世流24世家元)</p>
 <p>竹韻草履の意 梅香の庭梅香 未雨の空は清 義之樹の心何 幸上 寛也</p> <p>姓白田宗里梅 公一翁英田</p>	<p>股野藍田 (天保9年 一大正10年)</p>
 <p>静 好</p>	<p>土方久元 (天保4年一大正7年)</p>

以上のほかに、千葉胤明（書）、川合龍山人（書）、竹村竹亭（書、画）、佐竹永邨（書、画）、村田香谷（画）、山本永暉（画）、藤森桂谷または下條桂谷（画）、荒木寛友（画）などが含まれている。